

今こそ“いのち”を守る行動を！

～「自分は大丈夫」が落とし穴～

【感染爆発と医療崩壊寸前の状況】

4月5日に本市は「まん延防止等重点措置」の対象区域となり、市内の飲食店等には夜8時迄の時短要請にあわせて消毒設備・アクリル板の設置など感染防止対策を行っていただいております。また、市の集会施設なども夜間の利用を中止しております。

ところが、まん延防止措置開始から2週間が経とうとしている現在も感染者数が減る気配は全くなく、逆に増加の一途をたどっております。

感染者数の急増により入院病床は既に満床状態となっており、重症患者や中等症患者でさえ入院まで時間がかかるケースが生じております。これ以上、新規感染者が増え続けると、医療崩壊により、救えるはずの命が救えなくなるという最悪の事態が起こり得るところまできています。

そこで、更なる新規感染をくい止め、市民の皆さまの“いのち”を守るために、西宮市長として、皆さまに強くメッセージを発信いたします。

【感染された方の経験談を生かす】

保健所では感染経路等を突き止めるために、日々、感染者から聞き取り調査を行っております。最近の感染事例としましては、

- ・大学サークルなど集団でのバーベキューで感染したケース
- ・高齢者バス旅行で複数人が感染したケース
- ・お花見に行った際に感染したと思われるケース

などがございました。

感染者の多くの方が「自分は大丈夫だと思っていた」などと仰っておられ、感染に対する意識が低かったり、コロナ対策疲れによる油断が感染につながっている実態が浮き彫りとなっております。いわゆる、感染は他人事という考え方やちょっとした油断が「感染の落とし穴」となっております。

言い換えれば、しっかりと感染防止に対する知識と強い意識を持っていれば、感染から身を守る事ができるのです。

【“いのち”を守るための行動指針】

ご自身やご家族など大切な方の“いのち”を守るために、今すぐ次の行動の徹底をお願いします。

- マスク着用の徹底（うっかりはずして会話しない）
- 普段一緒にいない人との接触を避ける
- 入念な手洗い、部屋の換気を行う
- 3密（密閉・密集・密接）、人ごみを避ける
- 狭い空間に人が集まるイベント、歓送迎会は行わない
- 個食（他の人との距離を取って一人で食べる）、黙食（黙って食べる）に努める
- 体調管理に努め、違和感を感じたら早めにかかりつけ医で受診する
- 感染対策を行っていない飲食店、カラオケ店等に行かない

現在、急速に増えている変異株は、これまでのコロナウイルスと比べて感染力が強く、重症化するスピードが速いとの特徴があるようです。会食等で感染した後に家庭にウイルスが持ち込まれ、家庭内感染につながっているケースも多く、特に働き盛り（40～50代）の人が重症化する事例も増えております。このように、これまで第1波から3波までのご自身の経験で「自分は大丈夫」との考えが、まさに命とりとなってしまいます。

今、市役所は、従来業務の一部を停止するなどして、保健所のコロナ対応やワクチン接種体制の強化、経済的影響を受けている方々への支援などに全力で集中する体制を構築しております。

この感染急拡大の大きな波から、市民の皆さまの暮らしを守るために、引き続き全庁体制で臨んでまいりますので、どうか市民の皆さまにおかれましては、くれぐれも「感染しない、感染させない」との強い思いで“いのち”を守る行動の徹底をよろしくお願い申し上げます。



西宮市キャラクター みやたん

西宮市長 石井登志郎